

組織レ去ル七月決死ノ運動ヲ形勢炭坑地方ニ實現セルガ事ニテ是レ
 官憲ノ壓迫ナカリモ目的ヲ達シ名ヤモ計ラズ又資本主側ニ於テ緩
 衝地帯トモ稱スベキ國粹會支部及大瓢但ニ没知レシテハ目的ノ成
 分ヲ達セシヤトモ考ヘシテ美官憲ト坑主側ノ作戦計画ニ失敗ニ成リ
 レ試川一派ニ去ル三日大敗ニテ開催シ名日本労働同盟十一年大會
 ニ之ノ決議ヲ為セリ

がまだ悔りやまぬ中に加藤勤行氏
 (大勝會)は労働同盟として左の
 旨を宣言案を提出
 日本労働同盟は九州筑紫田
 に於ける労働組合運動に對し不
 當なる壓迫、越權を以て人権條
 約を敢てせる當局を批判す
 大正十一年十月二日
 日本労働同盟十一年大會

着色又ハ着色ト認メシテ解雇セルル労働者ハ業務ニ急務ナルハアラ
 ズ却テ他ノ職工又ハ坑夫ヨリ早く自覺メタルモノニテ智識アルモノナリ彼
 等ハ解雇セラレテ生活ニ苦ムカ故ニ人生ヲ恨ミ資本家ヲ呪詛シ官憲
 ニ反抗スルニ至ルハ不得止ル勢ナリ本職任ハ此等労働者が現時ニ